

発刊にあたって

豊田市は、平成 17 年の市町村合併により、面積は 918.32km² となり、県域の約 6 分の 1 を占め、県内最大となりました。市域の約 7 割は森林が占めており、私たちは様々な森林の恵みを受けながら暮らしています。また、世界に誇るものづくり産業も豊かな森林を水源とする矢作川の水に支えられています。

現在、土地開発による生息・生育地の減少や、自然に対する人間活動の縮小による里山などの荒廃、外来種による生態系のかく乱などによって、豊かな自然と生物多様性に及ぼす影響が懸念されています。今後も、自然からの恵みを享受し、豊かな暮らしと発展を続けていくためには、生物多様性を持続的に使える地域資源として捉え、それを活かした地域づくりを進めていかなければなりません。

そのような状況の中、本市では、平成 26 年 1 月に「生物多様性とよた戦略」を策定し、生物多様性の恵みを将来にわたって得るための基本的な考え方や望ましい行動を本市の生物多様性に関わる行動目標として掲げ、その実現に向けた取組の方向性を示しています。

この中で、「市民が、生き物とのつながりの中で豊かな暮らしがおくれる社会」を豊田市がめざす 2050 年の姿としており、その実現のためには生物多様性に関する様々な情報を蓄積していくことが大切です。

本報告書は、新修市史編さん事業に併せて実施された自然環境調査の結果を分野ごとにまとめたものです。市町村合併後、市全域で実施した初めての調査であり、調査データは約 24 万件におよび、これまでにない貴重な報告書であると言えます。

今後、本報告書の調査結果を豊田市の生物環境基礎情報として蓄積し、本市に現存する動植物の歴史的な証明や根拠資料として活用していくとともに、各分野からの提言等を踏まえ、環境基本計画の策定や環境保全施策事業等に活用してまいります。

最後に、報告書発刊にあたり、各分野の執筆者の皆様をはじめ、調査に御協力いただきました多くの皆様に心から感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

豊田市長 太田 稔彦